

2017年度（2018年3月期）決算説明会における主な質疑応答

※ 説明会での質疑応答をそのまま書き起こしたのではなく、簡潔にまとめております。

【会社全体に関するご質問】

<インバウンドの取り込みについて>

Q 福岡空港や博多港などから入国する訪日外国人が増加しているとのことだが、西鉄グループの業績に対する影響について伺いたい。

- A
- ・ バス事業においては高速バスをご利用いただいている。九州島内の高速バス・一般路線が乗り放題となる乗車券「SUNQパス」の韓国や台湾における販売が増加しており、販売枚数は1年間で20万枚を超える水準となっている。(決算説明会資料P26参照)
 - ・ 鉄道事業においては「太宰府・柳川観光きっぷ」などの企画乗車券のご利用が、前期に比べ2割程度増加している。

<天神エリアの再開発について>

Q 旧大名小跡地活用事業に共同事業者として参画が決定したが、提案されている「ザ・リッツ・カールトン」と既存の西鉄グランドホテルとの棲み分けや、オンワード櫛山福岡支店ビルの開発の方向性などについて伺いたい。

- A
- ・ 旧大名小跡地活用事業の概要は公表されている通り、約3,000㎡の大きな広場を設けて、周りに「ザ・リッツ・カールトン」が入居するオフィス・ホテル棟や、レジデンスや公共施設が入居するコミュニティ棟などが建設される予定である。この広場は西鉄グランドホテルからみると中庭のようなロケーションであり、オンワード櫛山福岡支店ビルからみても一体的な空間の活用ができると考えて開発を計画している。(決算説明会資料P22、P23参照)
 - ・ ホテルについては、「ザ・リッツ・カールトン」は世界的なホテル、西鉄グランドホテルは地方ならではのホテルとして、中身の違いから十分な棲み分けができると考えている。オンワード櫛山福岡支店ビルの開発においても色々な使い方が考えられるが、さらに違った中身のホテルとして、天神明治通り地区を含めた全体を構成していくといった考え方も成り立ちうる。
 - ・ 天神明治通り地区を含めて全体として、機能分担をしながら一番力を発揮できる計画を詰めていきたい。

Q 旧大名小学校跡地に隣接する西鉄グランドホテルやオンワード樫山福岡支店ビルの「航空法による建築物の高さ制限の緩和」について伺いたい。

A ・旧大名小学校跡地に隣接する西鉄グランドホテルやオンワード樫山福岡支店ビルの「航空法による建築物の高さ制限の緩和」については、国による決定であり詳細は分かりかねる。(決算説明会資料P20参照)

【各事業に関するご質問】

<バス事業に関して>

Q 2017年度は対前年でインバウンドの取り込みなどもあり増収となった一方、費用増により減益となったとのことだが、バス事業の需要がある中で減益となる事業環境について伺いたい。

A ・2017年度については、車両の更新に伴う減価償却費の増加や、軽油価格の上昇に伴う動力費の増加などにより減益となった。2018年度予想については、営業収益はSUNQパスの販売を少し固めに予想しており減収を見込んでいる。営業利益は軽油価格の上昇による動力費の増加などにより減益となる見込みである。(決算説明会資料P4、P36参照)

・事業環境については乗務員不足が最大の課題であり、雇用を確保するために待遇改善を進めている。

以上